

OMC事務局 〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原 一夫 TEL06-6833-9227  
 広報編集局 〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田 茂夫 TEL072-850-5781  
<http://www.ne.jp/asahi/smaeda/12/>

平成18年8月(2006年)No.488

## 余部撮影会作品公開コンテスト 1位前田氏、2位関氏の頭上に

去る7月29日(土曜日)夜、行われた余部撮影会作品公開コンテストには、作品が全部で15本が出品され、時間を少々オーバーしての熱戦となりました。内訳は4対3作品が4本、ワイドが5本、ハイビジョンが6本でした。当日定刻までに集まった20名の会員さんが順位をつけて1人4票を投票するやり方です。1位4点、2位3点、3位2点、4位1点の割合で集計し総合得点で入賞作品4本を選び出しました。いずれ劣らぬ力作揃いで、順位を決めるのに忍びない程の悩み多い投票でしたが、結果は次の通りに決りました。入賞者は勿論出品者全員にDVテープ進呈。

### ■余部撮影会作品公開審査結果

|                      |       |           |
|----------------------|-------|-----------|
| 最優秀賞「ありがとう余部鉄橋」(HDV) | 前田茂夫氏 | 13分44秒35票 |
| 優秀賞「屋根の上の鉄橋」(HDV)    | 関 剛氏  | 8分55秒31票  |
| 秀作賞「鉄橋のある郷」(HDV)     | 進藤信男氏 | 12分55秒23票 |
| 〃 「余部挽歌」             | 合原一夫氏 | 11分22秒23票 |

以下、出品者全員「努力賞」が授与されました。

|                       |             |
|-----------------------|-------------|
| ・余部(W) 紙本氏 10分20秒     | ・山峡に架かる余部鉄橋 |
| ・余部鉄橋(W) 吉岡氏 10分00秒   | 宮崎さん 9分40秒  |
| ・香住そして余部(HDV)         | ・香美町一寸散歩    |
| 江村氏 8分20秒             | 森氏 9分15秒    |
| ・余部鉄橋(W) 有村氏 9分17秒    | ・心のサプリ      |
| ・余部駅物語(W) 河合氏 5分33秒   | 山口さん 7分15秒  |
| ・日本海の風と共に生きる(HDV)     | ・余部鉄橋(W)    |
| 石垣氏 9分50秒             | 増池氏 7分30秒   |
| ・余部を旅して(HDV) 奥氏 9分32秒 |             |

### 8月例会のお知らせ

8月例会は第4土曜日26日、午後6時より大阪市立難波市民学習センター(JR難波駅OCATビル4階)にて開催。どうぞお集まり下さい。多くの方の作品もお待ちしています。

## 9月例会日変更 予告

9月第4土曜日は秋分の日で祭日ですので、夜は閉館となります。止むを得ず9月例会は**第5土曜日30日**に変更しましたのでご承知おきください。

■森下仙丈さんの住所が変わりました  
新住所：大阪市西淀川区柏里3丁目17番  
4-506号（電話は変わらず）

## 余部撮影会作品総評

会長 合原一夫

今年の撮影会は、はたして何本出品されるか、そのうちハイビジョンは何本が出るのか楽しみにしていましたが、結果は15本の出品、4対3の通常作品は4本、ワイドが5本、ハイビジョンは6本、合計15本でした。皆さんよくまとめられたものと敬意を表します。

最優秀作品を受賞した前田さんは、今まで何回も現地へ足を運ばれ、余部鉄橋にすっかり魅せられてしまったという鉄道ファン。やがて取り壊される運命とあっては格別の思いが、作品にもにじみ出ていました。

また、関さんや江村さんも何回も撮影に出掛けられて、ロケハンにご協力いただきましたが、撮影ポイントをよく掴まれており、一般の人とはひと味違った映像カットが多々ありました。

優秀賞の関さんの作品は音の効果を最大限活かした構成をなされているのが、さすがと思いました。例えば、農婦が畝で休んでいるとき、鉄橋を渡る列車の音を聞かせて関連付けるとか、列車落下事故の地元の方のお話を加工してポイントを強調するとか、特殊処理の映像効果とあいまって、関作品ならではの出来栄えに仕上がって感心いたしました。

進藤さんは公開審査当日はお休みで、投票は出来ませんでした。堂々の23票の3位を獲得されました。よく調べて教材にも使えそうな解説がよかったです。進藤さんにもハイビジョンに取組まれておりこのところ力作を手がけられ将来が楽しみな方です。

今回は香住の漁港、せり市、観光遊覧船も加わって盛りだくさんの内容でしたので

主なるテーマの余部鉄橋と、どう結びつけていくのが、作品構成のポイントとなりました。漁港での魚の水揚げ風景などこれだけで十分作品になり得る内容がありましたので、これを活かそうという気持は判りますが、あまり突き込みすぎると余部鉄橋の印象が薄くなってしまいます。余部鉄橋を描きたいなら、漁港に深入りしない方が賢明ではなかったかと思えます。

もともと、最初から、あのあたり全般を広く浅く描くという森さんの「香美町一寸散歩」みたいなまとめ方もありますが。

江村さんはテーマが二つにわかれるのを承知で題名も「香住そして余部」とされました。漁港の賑わいと遊覧船とをカットバック的つなぎで新表現？されていますが、少し無理なように思いました。私は漁港と遊覧船はイントロに持ってきて遊覧船から眺めた橋から本編へとつないで見ましたが如何だったでしょうか。ナレーション間違いがあった点は要反省です。しかし総じて良い作品が集まり努力の跡が伺えました。

## 7月例会のレポート

7月の例会は22日の午後6時より何時もの例会場で開催しました。司会、吉岡さん、書記、有村さん、デッキ係に増池さん、江村さん、受付兼照明係を渡辺さん、奥さん、宮崎さんの担当で進行しました。

◆出席者：有村、岩井、江村、岡本、奥、上総、紙本、河合、黒田、合原、進藤、関、田中、那須、西井、西村、秦、華岡、前田、増池、松本、宮崎、森、森下、森田、安居、山本、吉岡、渡辺（敬称略）29人の皆さんと作品本数16本でした。

◆上映作品（今月の記録と講評担当：有村世話役です）

### 1. やっさいほっさいまつり

森 保信さん 5分33秒

堺市の石津太神社で12月に行われた祭礼を2年にわたって取材されて作品にされました。他のクラブで上映し皆さんの意見を取り入れて前半を中心に2分半程短くして再上映されました。結果は後半の火渡りの神事が強調されて、より迫力のある見事な作品に仕上がったように思われます。

### 2. 愛は国境を越えて

**西村光雄さん 13分25秒**

ネパールが大好きで再々この国を訪れている西村さんが当初からの友人、プラディップ君を初めて大々的に紹介された作品です。東京で働きながら日本の女性と恋をし、カトマンズで盛大な結婚式をあげて正式に夫婦になり乍ら、不法滞在の結果、別々の生活を余儀なくされたお話が語られます。西村さんご夫妻は日本での彼の親代わりのような立場ですから、両国にわたる取材も綿密で説得力のある作品に仕上がっています。国際的な色々な問題にも突っ込んだご意見を述べられて見事な力作になったと思いました。

**3. ウエサカ祭**

**宮崎紀代子さん 9分20秒**

宮崎さんのお住まいと同じ町内にある龍雲寺では日頃、色んなイベントが行われて檀家や近所の人々の楽しい集会の場になっているようです。韓国やタイの踊り、子供達を集めて境内での説法などが紹介され、毎年5月5日に行われるウエサカ祭では恒例のダンゴ撒きが作品のクライマックスとして紹介されます。ご近所とは言っても、何回かにわたっての地道な取材によって作られた作品で楽しく拝見しました。

**4. メコン 下流編**

**山本正夢さん 13分00秒**

メコン川全域4200キロを5年かけてバイクや渡し船に乗って一人旅。その間にビデオカメラは3台変わったそうです。そのテープを5、6月の例会の上、中流編に続いて今回が最終回の作品を拝見しました。ラオス、タイの国境添いに南下して人々の生活や習慣などが紹介されます。ベトナムではメコンデルタ湿地帯の様相。中国チベット高原に始まって東南アジア6カ国を流れ下って南シナ海に至る所で作品は終わります。プロでも取材不能と思われる、一切ヤラセなしの映像には魅力が一杯ありました。山本さん、最近ハイビジョンカメラを持って一人旅を重ねておられるとか、益々期待が高まります。

**5. 冬・美瑛**

**合原一夫さん 9分50秒**

北海道、美瑛町のペンションにご夫婦で何回も通われて写真、映像を撮られている

そうです。四季を通じて変化する自然を、今回は2回行かれた冬を主題に作品にしておられます。雪の中で元気に遊ぶ幼稚園児や北きつね、りすなど動きのある被写体も交えて飽きさせない工夫もしておられます。白一色で変化に乏しい現地をこれだけ表現されているのはさすがベテランの技とと思いました。

**6. 伏木曳山祭 (W)**

**紙本 勝さん 7分45秒**

富山県高岡市の伏木神社の祭礼は北陸2大祭の一つだそうです。全国の祭を精力的に取材されている紙本さんがその魅力に取りつかれただけあって豪華な曳き山が沢山出てきます。祭を司る人たちの正面に立ってよく撮影が出来るものだと感心します。夕刻になって提灯に灯が燈されて幻想的な雰囲気の中で、山と山がぶっかり合う勇壮な映像がクライマックスを作って終わります。手慣れた撮影の見事なお祭映像作品でした。

**7. ウィグルの人びと (W)**

**河合源七郎さん 8分46秒**

5月に10日間、企画ツアーに参加してシルクロードを旅して取材してこられました。少数民族の生活を細かく撮影されて、珍しい被写体ですので楽しく拝見しました。最後に漢民族、中国人の商都では近代的な高層ビル群が出て、それまでの映像との間に違和感がありましたが、これが現実なのでしょう。ただこの作品に限ってテレビを強制ワイドにしないとワイドになってくれないので、他所で上映する場合にマイナスになるのでは、と思いました。

**8. 香住にて (W)**

**増池 茂さん 8分20秒**

「餘部鉄橋」撮影会の2日目午前中の取材で作品を作られました。皆さんは午前5時頃から漁港でのセリを中心に撮影したのですが、増池さんは町内や漁港を歩き回って皆さんとは違った角度での取材を重ねられたようです。それだけに新鮮な映像を見せて頂きました。ただ遊覧船からの映像の中での餘部鉄橋の静止画2カットはこの旅行に参加した人以外の人にはそれが何なのか、判らないと思いましたが、如何でしょうか。

## 9. 挑む (HDV)

安居利次さん 8分00秒

これは安居さんがハイビジョンの編集に挑むパフォーマンスの作品です。DVの初期のノンリニアの時を振り返って、今度もやれると確信するまでの過程を面白、可笑しく表現されて同じ趣味の仲間の共感を得られたようです。効果音を利用するように、ネットで取得された効果映像を駆使されての作品作りは作者の最も得意とされる所で、今回も思う存分利用しておられました。楽しい作品でした。

## 10. 風薫る (HDV)

江村一郎さん 4分00秒

高槻市の川沿いの公園での取材で作られた作品です。楽しく遊ぶ子供たち、釣りを楽しむ人、鳥や花々のカットが江村さん独特の詩的なカメラワークで表現され、特に川の上に泳ぐ沢山の鯉のぼりがさり気ないカットで出てくるのが秀逸でした。小品乍ら見事な作品だったと思います。

## 11. 鳴門のうず潮 (HDV)

奥 宏さん 6分54秒

淡路島の福良港から大型帆船に乗っての撮影と、定期バスで四国の徳島側で下りて歩いて鳴門大橋の渦潮の真上から取材された力作です。お聞きしますと、うず潮は季節によっても、1日の時間によっても出来たり、出来なかつたりするそうで、そのタイミング合わせも重要な事のように。充分な下調べの上で、現場に行かれて1泊で撮影されたもので立派な作品に仕上がっていました。

## 12. 新緑の裏磐梯 (HDV)

有村 博さん 7分21秒

5月に2泊3日の旅をして福島県の磐梯山の北側の高原地帯で取材しました。風景写真家の経営するペンションの写真教室に参加して自然の風景を撮影し、他のクラブで発表しましたが、自分で納得するまでご意見を頂戴し、構成をやり直して今回の上映にこぎつけました。美しいハイビジョン映像作りを目指している昨今です。

## 13. 春、余部 (HDV)

前田茂夫さん 8分30秒

菜の花や桜の咲き乱れる頃、前田さんは兵庫県余部町で餘部鉄橋を渡る列車を背景

にかなり長時間撮影を重ねられたようです。中には小学校の校庭で遊ぶ子供や畑仕事の老婆、道を歩く土地の人などを交えて列車の通過をあらゆる角度からカットを作っておられます。鉄道マニアの人たちにとっても貴重な映像だと思われます。

## 14. 秋祭練習 (HDV)

上総修一郎さん 20分00秒

富田林市の、とある町内の青年団の人々が秋祭の地車曳行の為の打ち合せと練習の為に集会を開いたので、上総さんがハイビジョンカメラで克明にその記録を撮影されました。それは夜の8時から11時までの記録で、中には曳行先で行う「にわか」という短いコントを新しいメンバーが行う練習などもあり最後は地車を倉庫から曳き出し、曳行、元に納める所で終わります。打ち合せたり、お互いの会話の言葉が今一つ判らないので作品の時間が長く感じられる、といったご意見がありました。

## 15. 大台ヶ原 石楠花の咲くころ (HDV)

進藤信男さん 6分58秒

進藤さんの初めてのハイビジョン作品です。6月に奈良県と三重県の県境に広がる高原台地をハイキングされて撮影されたようです。ビクターセンターから日出ヶ岳、正木ヶ原、牛石ヶ原、大蛇岳、石楠花群生地など東大台を回って独特の景観をくまなく描写しておられます。これだけの距離を歩いて三脚で撮影するには大変な努力をされたのではないのでしょうか。

## 16. 初めての尾瀬 (HDV)

西井 学さん 4分20秒

水芭蕉の頃ですから5月末か6月でしょう。かなりの人数のツアーのようですね。これでは満足に撮影も出来なかったでしょう。三脚を立てたとしても木道の上で、歩く人の揺れが出ます。その上に鳩待峠から入って尾瀬ヶ原から三条の滝を見て沼尻で泊まるには可成の強行軍だったのでしょう。メインタイトルの字の間違いは早急にご訂正を…。

以上で上映を終了し、いつものように喫茶店組と居酒屋組に別れてそれぞれ二次会を楽しみました。